

## 校長研修だより18

### 再契約で学級の維持ルールを完成

2021・7・5 重枝 一郎

7月になった。1学期が終わろうとしている。これまでクラス活動（教科の授業）をする中で、学習ルール、生活ルール、対人ルール（3つのルール）を生徒と契約し、どんなことを大切にできる学級（授業）なのか、意味の共有、感情の共有、行動の共有（3つの共有）を図れたか。6月の「教育相談」は生徒の悩みを聞くと同時に、ゆるみがある時期の再契約の時間にもなる。（先生方、教育相談面談ありがとうございました）

#### （1）ゆるんでなくてもゆるんでいる

- ・契約時のことを想起して、生徒同士で評価（認め合い活動）
- ・ほめてルールを強化できたら一番いい
- ・教師の強い指導は、誰か契約を破って、クラスメイトとの感情共有が崩れそうになったときがいい（対教師にならない、教師の人間性をアピール）

#### （2）1学期末に2学期の学級づくりを進める

- ・ゆるみがある6月、7月をしっかりと生活させる。その姿を、2学期のリーダー決めや学級組織につなげる
- ・正当な評価になるように1学期末に2学期のリーダー決めをするやり方もある。そのために7月は友だちをきちんと見ていくことを意識させる

#### （3）その先にある世界を示す

- ・1学期の「荒れ」は目立たない（荒れはじめ）
  - 2学期は問題行動が表面化してくる（トラブルが絶えないようになり、本来生徒全体に対してしたいことができなくなる）
  - 3学期の「荒れ」ははっきりしている（崩壊）
- ・「維持ルール」が定着したクラスは「向上ルール」（集団、個人がよりよくなるためのルール）に発展させる問いをつくる
- ・「誰とでも組める力」（2学期テーマ）の育成につながる（1学期はお互いを知る）。また、通年では「助けてもらう力」を発信し続ける。これは「人を好きになる秘訣」につながる（朝礼拝で久家教頭も話していた・再現性を！）

#### （4）教師の「こだわり」が強すぎると「こわばり」を生むときもある

- ・こだわり＝気にしなくてもいいことを気にする
- ・本来、気にしなくてはいけないことに気が回らなくなる
- ・生徒が期待している授業はどんな授業なんだろうという相手意識をもつ

#### （5）生徒はモチベーションだけが全てでない

- ・教師の勢力資源がないと伝わらない
- ・ルーティン化を取り入れる。日々のルーティンには心を活性化させる力がある